

## 第15回京都ベンチャーセミナー/2003KVBC就職フェア開催

去る3月28日(木)、キャンパスプラザ京都において、2003KVBC就職フェアと、第15回京都ベンチャーセミナーが開催されました。今回は、講師にオムロン(株)の田島年浩氏をお招きし、いま話題のペット型ロボット「ネコロ」の開発秘話や今後のビジネスチャンスなどについてお伺いしました。

### ロボットはどんなビジネスチャンスを生むか

講師：田島年浩氏(ペット型ロボット「ネコロ」開発者  
オムロン(株)事業開発本部電子ペットプロジェクトリーダー)



これまでの工業社会の中では、生産性や効率性が重視され、機械の性能に合わせて人が操作するという使い方が中心でした。しかし、心の豊かさが求められるいま、機械が人や環境とコミュニケーションして、まるで心を持っているかのように振る舞ってくれる、そんな温かみのある機械が必要なのではないでしょうか。

「人と機械のコミュニケーション」という観点で開発を進めたのが、ペット型ロボット「ネコロ」です。これまで市場にペット型ロボットが登場しなかった一つの理由には、機械であるロボットに愛情が生まれにくいという背景がありました。ネコロには、頭や背中に触覚センサ、顔の中に聴覚センサ、鼻の中には視覚センサが組み込まれていて、それぞれのセンサから取り込まれた情報をもとに、甘えたり怒ったり、驚いたり眠くなったりと、さまざまな感情表現ができるようになっています。また、飼い方によってネコロの性格が変化していき、飼い主が呼ぶ名前を覚えてその声に反応するといった人工知能や学習機能も備えています。

こうした一つひとつのコミュニケーションの積み重ねによって、人間は機械に対して愛着や共感を感じるようになるのです。アニマルセラピーという言葉がありますが、今後はペット型ロボットを使ったロボットセラピーのような、従来の機械の使用目的とはまったく異なる安心感、やすらぎといった価値観を提供できるのではないかと考えています。

いま、ロボット市場はかつてない勢いで膨れ上がっており、これらロボット市場は2010年には800億円規模になると予測されています。ロボットに搭載される人工知能や学習機能という技術はさまざまな分野に応用され、例えば自動改札や自動車の自動運転、あるいはネットワークにつながったセキュリティロボットなど、インテリジェントな社会システムの構築に役立つことでしょう。ロボットそのものの市場だけでなく、それに伴ってさまざまな波及効果が広まってくることも期待されています。ぜひみなさんも、今後のロボット市場に注目いただき、目の前のビジネスチャンスをつかんでほしいと思います。

### ロボットを動かす要素技術に注目が集まっている

対談：築地達郎氏  
(株)京都経済新聞社代表取締役・編集長) × 田島年浩氏



築地/ペット型ロボット「ネコロ」を開発するのは、さまざまな苦勞もあったと思いますが、その辺りはいかがだったのでしょうか。

田島/最初開発をはじめた頃は、オムロンにとってどんな価値があるのかとよくいわれました。大きな実験室でネコとにらめっこしているわけですからね。(笑)ただ、形はネコの姿をしています、中に入っているさまざまな技術は幅広い分野に応用が期待できます。

築地/私自身、すでにある技術でかなりのロボットが作れると思いますが、現在の技術の発展段階はどんな状況なのでしょう。

田島/メカニズムやコンピュータの演算といったハードウェアの技術は進んでいると思いますが、その上に乗せるソフトウェアがまだまだ追いついていません。例えば、ロボットに京都駅までの道順をインプットすれば、京都駅には連れていってくれますが、その先には行くことができません。どこかに行きたいければそのプログラムを一つひとつ作ってやらなければならないのが現状です。

築地/一つのロボットの中には、人工知能や学習機能、センサなど、さまざまな要素技術が組み合わされていますね。今後は、ロボット開発の中でこれらの技術を応用していくことが求められています。

田島/ソフトウェアの部分はすでに銀行のATMや自動改札機、あるいは車に搭載されているITSなどに応用されています。またオムロンでは、相手の言葉を認識してその状況によって最適な応答判断をする技術を、自動応答システムなどに応用したいと考えています。

築地/今後、ロボット社会になってくると、ロボットの葬儀屋とかロボットのエステなども出てくるかもしれませんね。

田島/当社ではネコロのケアセンターを開設し、機械のメンテナンスだけでなく、クリーニングサービスなども行っています。ロボットはまだまだ高価なので、メンテナンスを専門に手がけているベンチャー企業も登場しているようです。

築地/そういう意味では、ビジネスチャンスはますます広がっていきそうですね。本日はどうもありがとうございました。

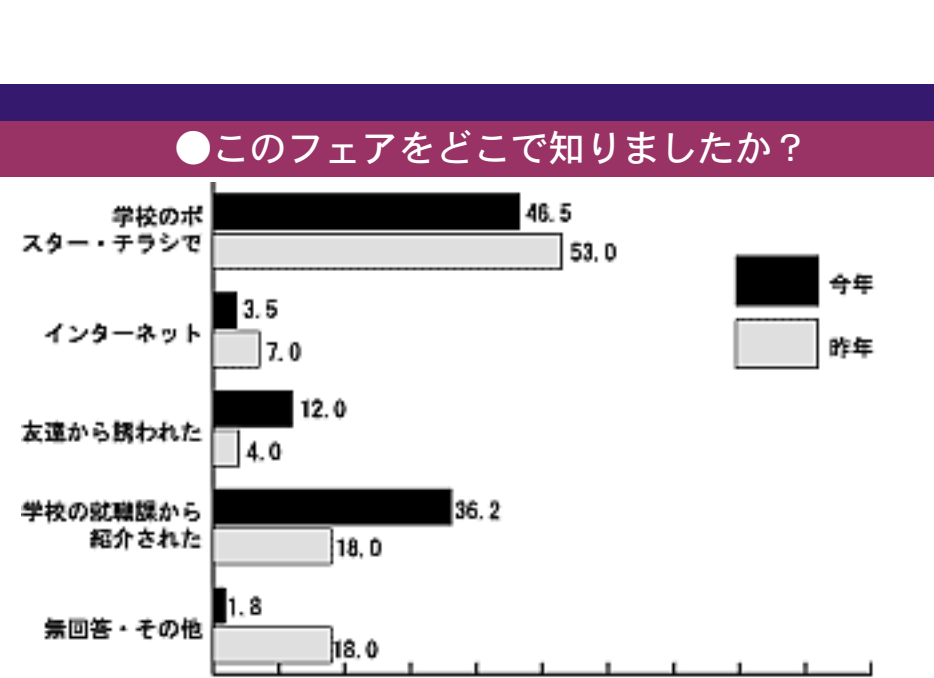
## 2003KVBC就職フェア開催

景気の低迷が続く中、キャンパスプラザ京都でKVBC人材ネットワーク主催の「03KVBC就職フェア」が開催されました。今回はベンチャーセミナーと同時に開催という初の試み。藤岡代表幹事は、「ベンチャー企業はエネルギーに溢れていて未知の可能性を秘めたところ。いろいろな会社をまわってみてほしい」となど挨拶されました。学生が春休み中だったためか、参加者は少なかったものの、開催前から並ぶ人が見られるなど、熱心な参加者も多数でした。

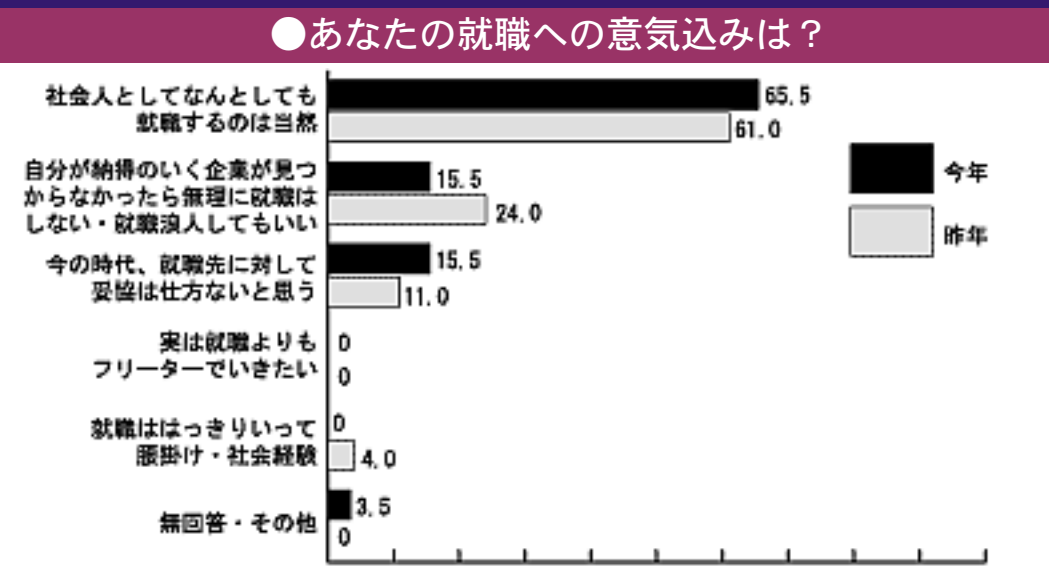
### アンケート回答 合計58人



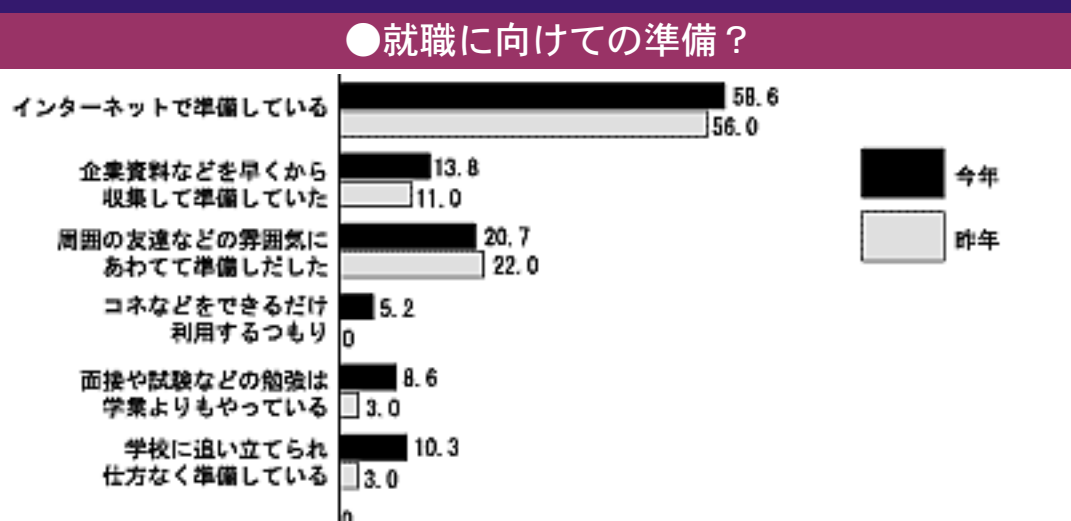
### ●このフェアをどこで知りましたか？



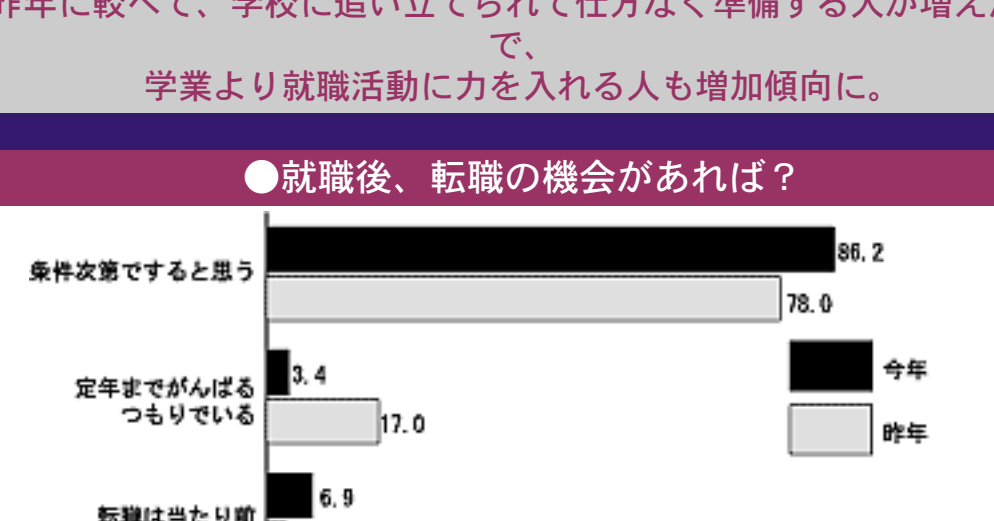
### ●あなたの就職への意気込みは？



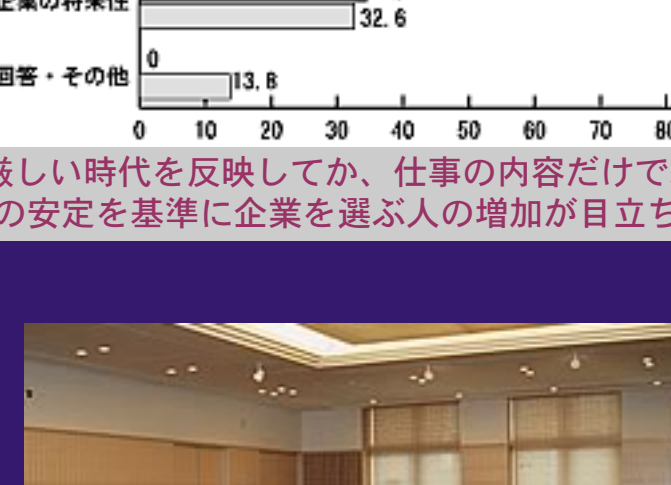
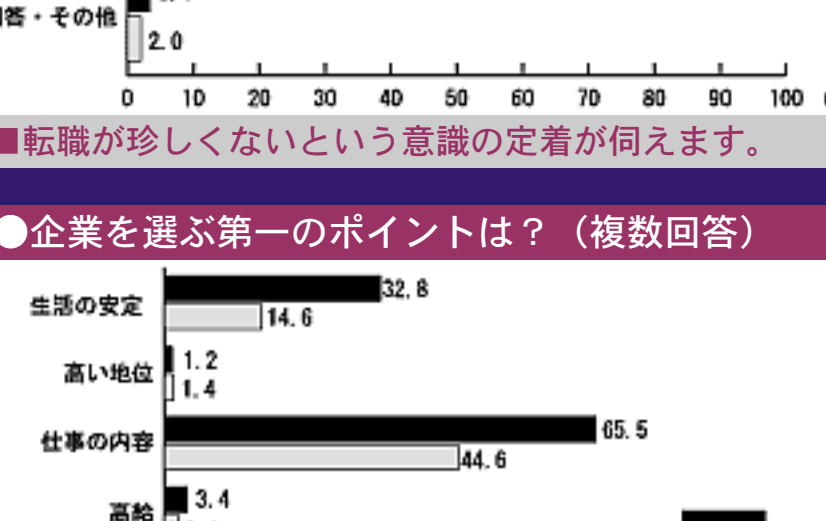
### ●就職に向けての準備？



### ●就職後、転職の機会があれば？



### ●企業を選ぶ第一のポイントは？(複数回答)



会場ではメモを取ったり、質問をしたりと、積極的な学生が多数見られました。

参加した学生からの意見や感想は、次号に掲載予定です

□

□

□